

# RPAのご紹介

JRCエンジニアリング株式会社  
ICT事業部

東京都新宿区高田馬場3-13-2 TSECビル4階  
TEL : (03)4530-3020  
FAX : (03)5386-0521

お問い合わせ : [bps-info@jrce.co.jp](mailto:bps-info@jrce.co.jp)

1. RPAとは

2. RPAの生産性

3. RPAの種類

4. 最後に

1. RPAとは

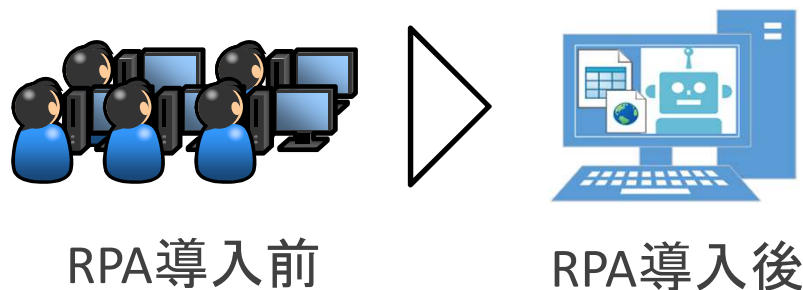
2. RPAの生産性

3. RPAの種類

4. 最後に

# RPAとは

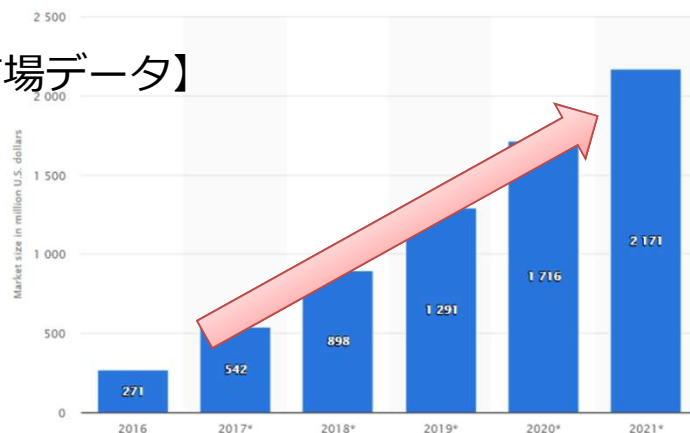
## RPA = Robotics Process Automation (ロボットによる業務自動化)



人間が使用していたシステムをソフトウェアロボットが代わりに操作します。

既存システムの改修、新規システム導入とは違い、サービス提供側が外部インターフェースを提供していなくても自動化が可能です。

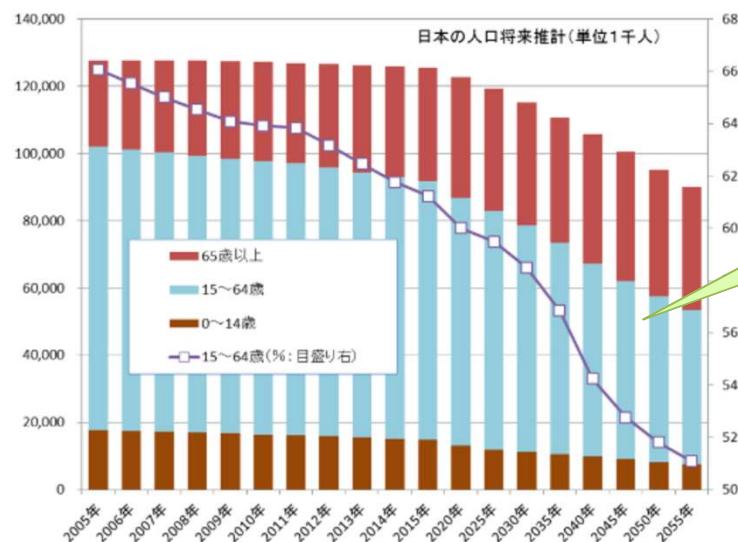
【RPA海外市場データ】



日本でも働き方改革の一環で注目されている

# RPAの必要性について

## なぜ今「働き方改革」が必要???



ものづくり産業労働組合資料参考

15歳～64歳の割合の減少が  
大きな日本の社会問題

- ① 高齢化
- ② 国内需給率が低下
- ③ 景気が悪化する可能性



労働力人口の増加が急務

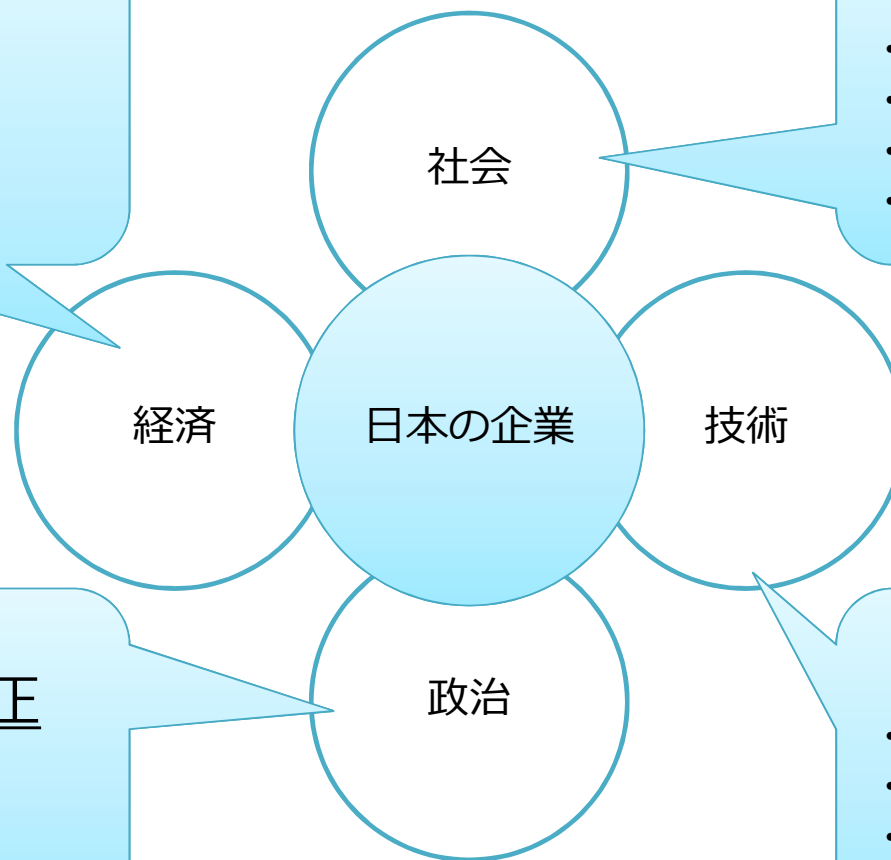
# 時代背景からもPRAの早急な対応が必要

## Global競争

- ・ アジア市場の経済競争激化
- ・ 新興企業の国内進出
- ・ 外国人雇用拡大
- ・ 本社機能の海外移転
- ・ Global企業のM&A

## 労働環境の変化

- ・ 働く目的の多様性
- ・ 少子高齢化
- ・ 労働力の人口減少
- ・ ワークライフバランスの充実



## 労働基準法の一部改正

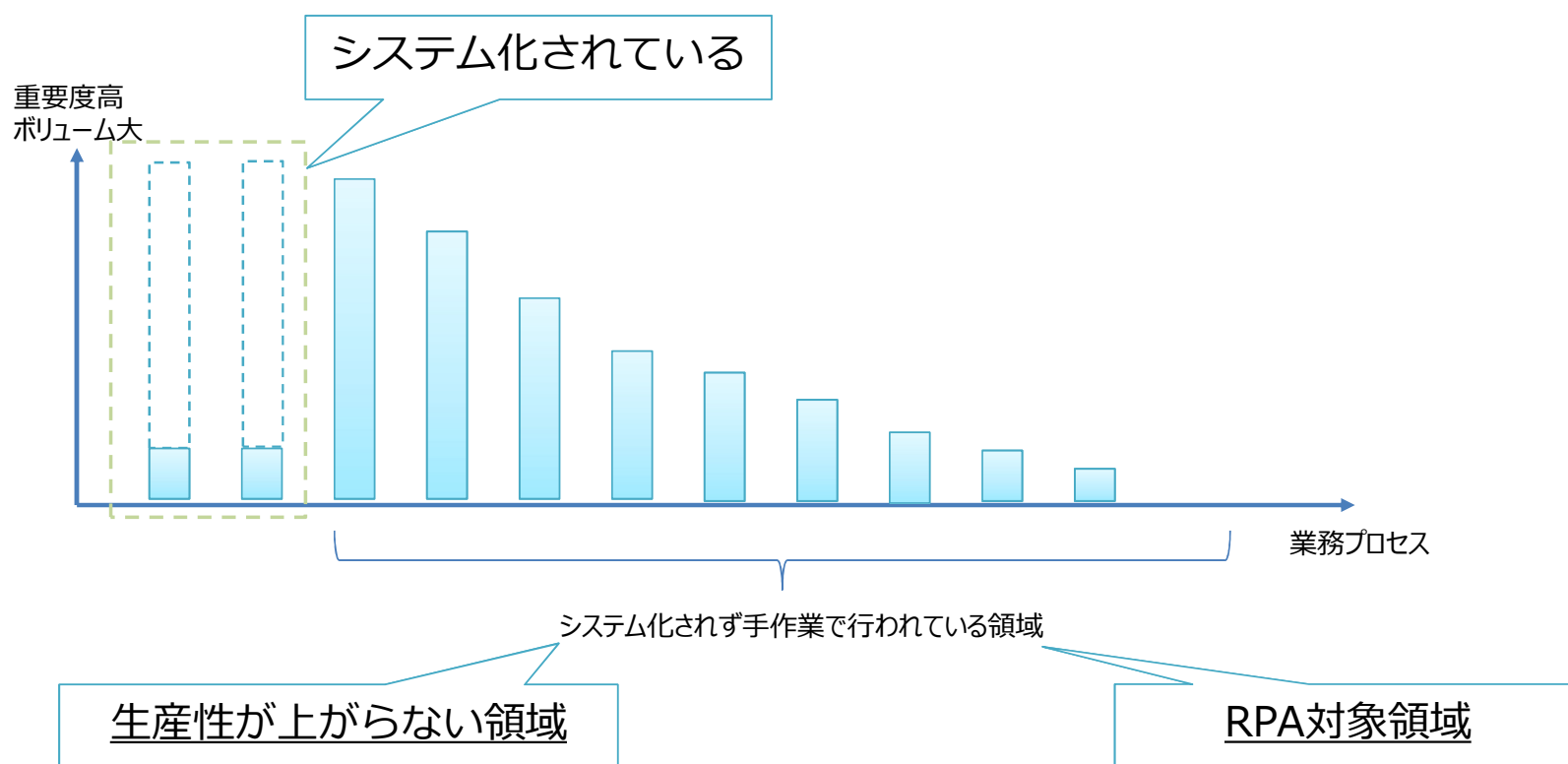
- ・ 時間外労働の上限を規制
- ・ 有給休暇の取得推進

## テクノロジーの進化

- ・ AI発展
- ・ ロボット化の進化
- ・ クラウドサービス化の多様性

# RPA対象領域

システム化が行ず、人が実行している作業は多いのが現状です。  
RPAはそのような未だに手作業で行っている業務が適用範囲となります。



# RPA化したい業務のニーズ

下記に示す業務でRPA対象のニーズが多くございます

## 経理系の業務

支払い業務

請求業務

仕訳入力業務

交通費精算業務

## 営業系の業務

受注業務

申込受付業務

日報集計業務

情報収集業務

## 人事系の業務

残業代チェック業務

残業分析業務

## システム系の業務

テスト業務

運用監視業務

## 製造業業務 (設計、工場系)

作業報告書の  
システム登録業務

品目マスタの  
システム登録業務

注文書からの  
仕様書作成業務



## RPA化したい業務 ベスト3

RPA化したい業務の中でも、下記の業務の自動化ニーズが非常に高いです。

### No.1 請求支払業務自動化

紙の請求書・注文書の内容を手でシステム登録する業務の自動化になります。  
RPA + OCRを用いて自動化するニーズが最もございます。

### No.2 受注業務自動化

営業系の業務にて、自動でお見積書を発行するなど、営業業務の自動化がNo.2となっております。

### No.3 集計業務自動化

Excelを用いた集計業務など、データを集計しレポート化する。

## RPA導入で見込まれる効果(1)

### ■品質向上

人間は単純作業が続くと集中力を欠き、ミスが発生しますがソフトウェアロボットは単純作業の繰り返しでもミスなく作業を続けることができます。

### ■コスト削減

RPAツールは複数のメーカーから提供されています。

価格も安い物だと年額50万円、高価な物では年額1000万円となっています。

この導入・維持費用はアルバイト1名～専門職の社員1名の雇用に相当しますが、人と違い24時間・365日働き続けることが可能なため、最大限活用することで4人以上の労働力を得ることができます。

## RPA導入で見込まれる効果(2)

### ■ 生産性向上

ミスが発生すれば、そのリカバリーや再発防止対策をとる必要があります。RPA導入による品質向上効果で、この時間を本来の生産活動に割り当てられるようになります。また、コスト削減で確保した人材を違う業務に転換できるようにもなりますので、人材不足で実行に移せなかった新しい事業へ乗り出すことも可能となります。

### ■ 長時間労働の是正

「すべてのデータが揃うのは各営業拠点の定時後。そこから翌朝の会議に使用するレポートを作成するために深夜残業で対応している。」

この様な業務をRPAの対象とすることで、担当者は「結果確認のために翌朝いつもより少しだけ早く出社する」だけで対応可能となり、QOL/QOWの向上が見込まれます。

# RPAデモ動画リスト

RPAのデモ動画をご紹介します(HeartCore Robo)

- OCR 帳票データの読み込みとExcel出力  
<https://youtu.be/ld5ISgEIw6M>
- Excelからwebへの自動入力(サーバーからの操作)  
<https://www.youtube.com/embed/loCM9tpj3wI>
- 旅費精算業務  
<https://www.youtube.com/embed/gEKlcJzqMVo>
- ExcelからWeb入力とメールドラフト作成  
<https://www.youtube.com/embed/AzZ3hIRpS5k>

1. RPAとは

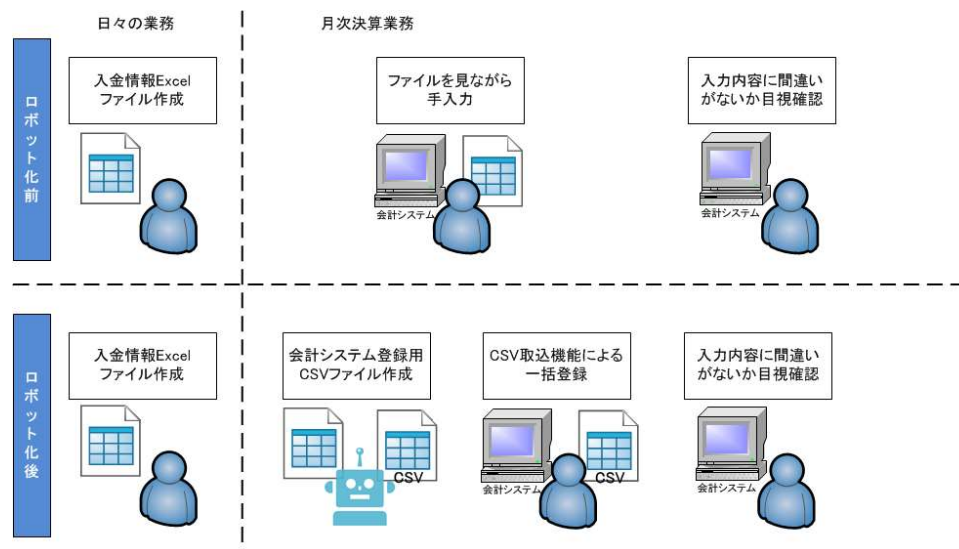
2. RPAの生産性

3. RPAの種類

4. 最後に

# 入金データ登録事例

## 契約ユーザから毎月振り込まれる使用料を会計システムへ登録



作業内容	RPA化前	RPA化後
手入力	420分	-
CSVファイル作成	-	2分
一括取り込み	-	5分
目視確認	60分	30分
合計	480分	37分

入金情報Excelファイルの内容を会計システムへ入力する作業をRPA化した

RPA化前： 入金情報Excelファイルの内容をパターン分けして会計システムへ手入力していた。

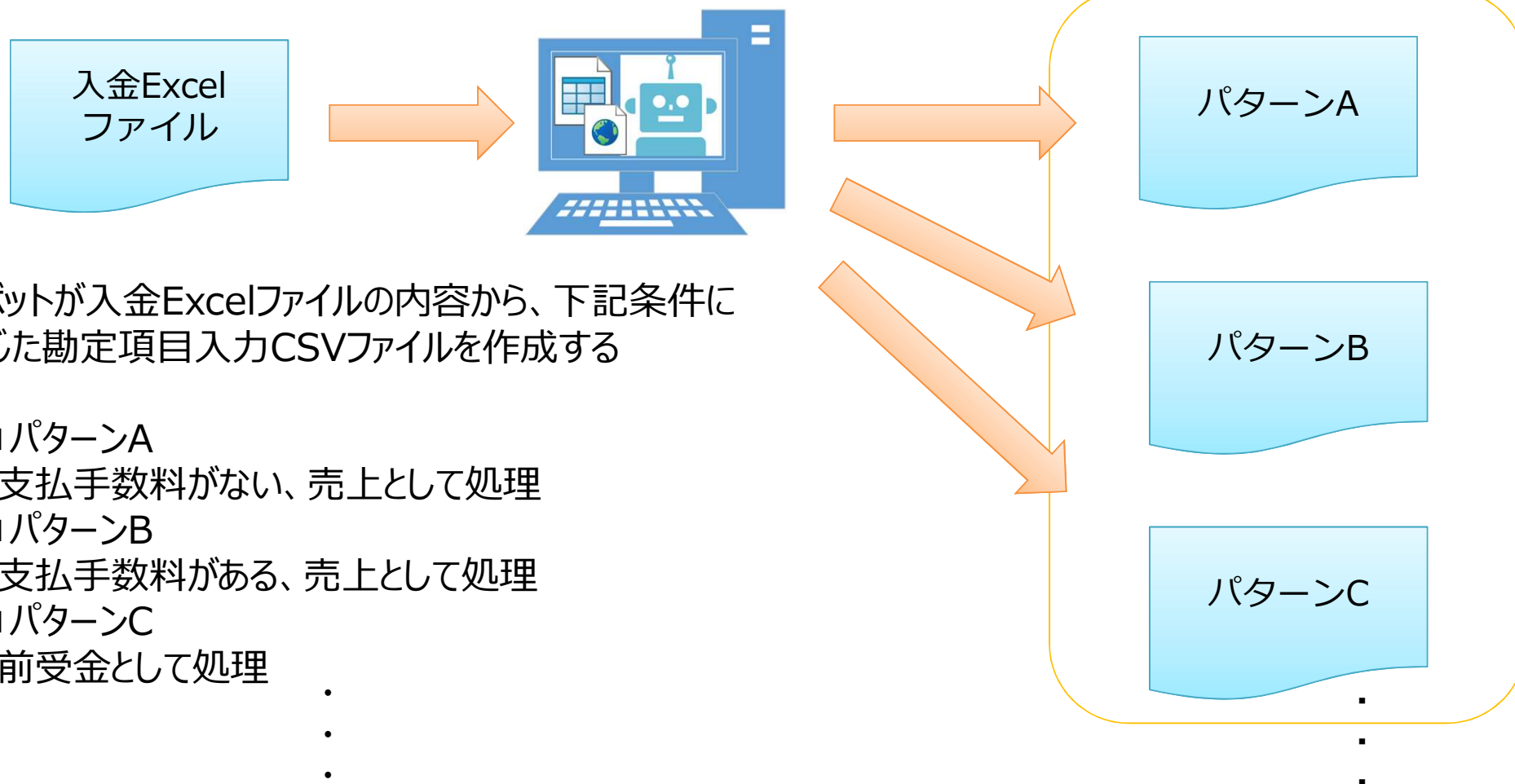
RPA化後： ロボットで入金情報Excelファイルの内容をパターン分けして会計システムへ一括登録できるCSVファイルを作成その後、作成したCSVファイルを手で会計システムへ一括登録するようにした。

RPA化することにより、入力ミスと入力作業の時間を減らすことができた（480分/月→37分/月）  
→月次決算資料の作成時間の短縮につながった。

# 会計システム一括登録用CSVファイル作成イメージ

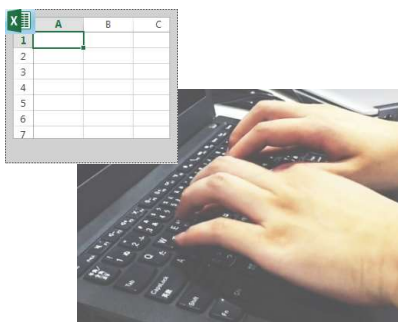
入金Excelファイル

勘定項目入力CSVファイル



# 会計システム一括登録の生産性

RPA化前は、毎月200レコードの入金データを手作業で会計システムへ入力していた。  
人手とロボットで1年間に行える処理件数を算出し、コスト、作業量について比較すると下記ようになる。



## 【人手による入力】

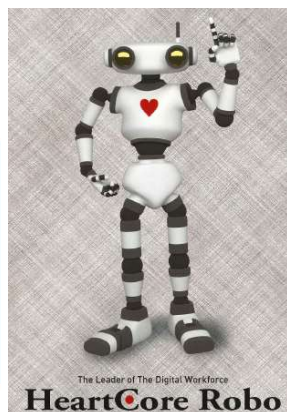
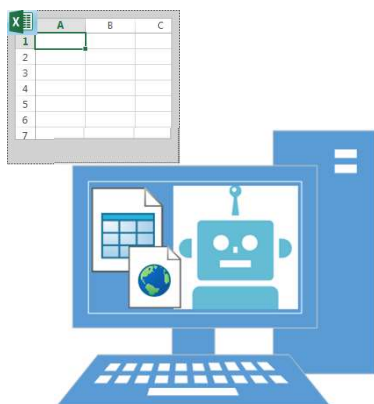
1ヶ月の処理件数 : 200件

1ヶ月の作業時間 : 480分/月(8時間/月)

作業者時給: 2,000円/時間

**人件費: 192,000円/年**

参考比較)年間処理可能件数 : 200件/日 × 20日 × 12ヶ月分  
= 48,000件(¥3,840,000) 80円/件



## 【ロボットによる入力】 (RPAロボット派遣型)

1ヶ月の処理件数 : 200件

1ヶ月の作業時間 : 37分/月

ロボットへの業務教育: 56時間 112,000円(手入力者が教育)

ロボット月給: 50,000円/月(HeartCore Robo)

**RPAロボット初年度総費用: 712,000円/年**

参考比較)年間処理可能件数 : 12,800件/日 × 365日分  
= 4,672,000件(¥600,000) 0.13円/件

※2年目以降



1. RPAとは

2. RPAの生産性

3. RPAの種類

4. 最後に

# RPAの種類

RPAは大きく分けてサーバー型とクライアント型の2種類に大別できます。  
サーバー型とクライアント型の一般的な特徴を下記に示します。

	サーバー型	クライアント型
区分	RPA	RDA
導入規模	大規模	小規模
開発難易度	中～高	小～高
ロボット管理	付属の管理ツールで一元管理可能	管理ツールは別途契約が必要
特徴	RPAを大規模展開することが確定しているユーザー向け。 ライセンスは高価だが、高機能・高信頼性が特徴。 サーバーでロボットが動作するため、安定して動作する。 大規模開発になるため、情報システム部を含む部門間の連携が必須である。 また、ロボットの管理機能も付属しており、ロボットが増えた時のロボット管理が容易である。	小規模でRPAを導入したいユーザー向け。 ロボット作成のハードルが比較的 low、情報システム部門以外の業務部門でもロボット作成が行える。 但し、作業者のPCで動作するため、解像度などの変化によりロボットが停止するリスクが高い。 ロボット管理ツールは付属しておらず、別途ライセンスの購入が必要なケースが多い。 ロボットが増えた場合の費用がかさむ傾向にある。
コスト	高価 700万～1000万以上	安価 50万～100万

※クラウド型RPAはWeb操作に特化した製品のため、上記には含んでおりません。  
※コストは最小構成のライセンス形態での目安価格となります。

1. RPAとは

2. RPAの生産性

3. RPAの種類

4. 最後に

## 最後に

AI、ビッグデータの活用や音声認識、画像解析の普及、さらには経営指標のリアルタイム解析など、ITの進歩・普及が世界規模でこれまで以上に進んでおります。その中で、ITを使いこなして効率化を進めることは必須の要件となっております。また、日本では労働力人口の減少など人手不足が深刻化しており、雇用が難しい現在では現行業務の自動化や、省力化が必須となります。

これらの背景の中で、RPAをはじめとする業務自動化ツールの導入が貴社の発展に貢献できるものと信じております。弊社といたしましても、貴社のお役にたてるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

JRCエンジニアリング株式会社  
ICT事業部 ITソリューション部 デジタル化推進室  
(03) 4530-3020  
[bps-info@jrce.co.jp](mailto:bps-info@jrce.co.jp)  
担当：斎藤 通孝